



北・その自然と人

札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然史博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2014.12 No. 59

発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

赤れんが前は、木の歴史通り

この夏、新しい商業施設「赤れんがテラス」ができ、国の重要文化財である赤れんが庁舎の前はさらに現代的な風景に一変しました。その真ん中を貫く北3条通りのイチヨウ並木の樹齢は推定108歳(2014年現在)とされ、札幌で最古の街路樹です。北3条通りの工事を行う前に、樹木医など専門家がイチヨウの根を直接観察する調査をしたそうです。その結果、木の周りを花だんにするために土を盛って根元に近い幹の部分が土に埋まったため、幹から細い根が直接出ている「二重根」の状態になっていることがわかりました。さすがは「生きた化石」のイチヨウだけあって、多少の変化では枯れることはないようです。しかし、並木と同じ年に植えられた赤れんが前のイチヨウは幹の直径が1m近くあり太い枝が横に張りだして、いかにも巨木という風格があるのと比べると、並木のイチヨウは貧弱に見えます。木にとって、い

かに地表の環境が大事かということをお教えくれます。

今年、そのような大きな木を訪ね歩く体験学習会「まちなかの巨木観察会」を企画しました。ルートを考えるため赤れんが周辺を下見していると、展示物らしき物が目に入りました。職業柄、そういうものがあると見過ごせません。それは、北3条通りが木製レンガによる北海道初の舗装道路だったことを紹介する看板でした。足元には木製レンガそのものが見られるようになっています。つかわれた木製レンガはブナ科の材木を四角いブロックにして、防腐剤(コールタール)をしみこませたものです。今、木製レンガはコンクリートの下とはいえ、そのまま現地に残されています。街の表面は変わっても、私たちは積み重なる歴史の上を歩いている・・・それを実感できる広場になっていました。(山崎)



図：体験学習会「まちなかの巨木観察会」で設定したルートでしたが、雷雨で中止になったため、ミューズレターでご紹介しました。(地図作成：札幌市博物館活動センター)

※イチヨウ並木及び木製レンガの情報は笠康三郎氏にご教示いただきました。ありがとうございました。



泥炭
湿っている時は、黒っぽい茶色をしています。植物の茎や根が入っているのがわかります。

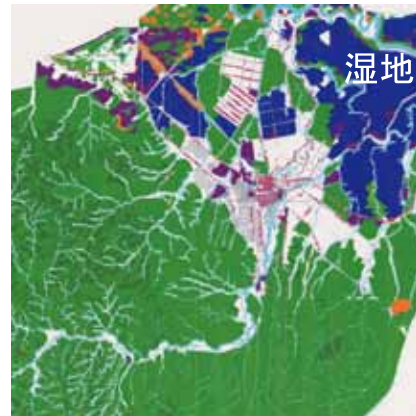
石狩低地帯が生んだウイスキーの香り

厚別区にはJR千歳線とJR函館本線の2本の線路が通っています。このうち函館本線の線路を境にして南半分が支笏湖の火砕流による火山灰の台地、北半分は低地です。この地形は、もともと札幌を広く厚く覆っていた火山灰を豊平川や石狩川が氾濫を起こすたびに少しずつ削り取っていったことでできました。かつては函館本線に沿って結構な高さの崖が東西に連なっていたはずですが。

一方、函館本線の北側の平野部は豊平川の河口とほぼ同じ標高にあるため、洪水が起きると水浸しになりやすい湿地でした。湿地は白石区から東区、北区にまで連なる広大な面積があり、こうした場所には泥炭の層が形成されました。泥炭は、北海道のように寒冷な気候の地域で枯れた植物が水に浸かって空気に触れない条件にあると腐りにくくなり、毎年積み重なってできたものです。

泥炭は枯れ草からできていますから、昔は手軽な燃料になりました。江別にあった私の祖父母の家でも泥炭をブロック状に掘り起こして乾燥させ、ストーブで燃やしていました。その時の炎の色や

煙の香り、そして何と言ってもその暖かさを今でも覚えています。特に、泥炭を燃やした時の特殊な香りは、ウイスキーの原材料となる麦を乾燥させるのと同時に、それぞれの地域のウイスキーを特徴づけるのに欠かせません。今、放送されている朝のドラマ「マッサン」のモデルとなった実在の人物・竹鶴政孝が起こしたニッカウイスキーでは、かつて札幌を含む石狩低地帯の泥炭を使用していたそうです。(古沢)



明治30年ごろの湿地の範囲(濃い黒色の部分)
図作成:札幌市博物館活動センター

かがく えほん がく げい いん い と ぼた
科学絵本よみきかせ&学芸員の井戸端サイエンス

2/28(土) 14:00~14:30

テーマ: 自然の2色コーディネート

対象: 3歳~大人 申込不要、無料

会場: 札幌市博物館活動センター展示室内

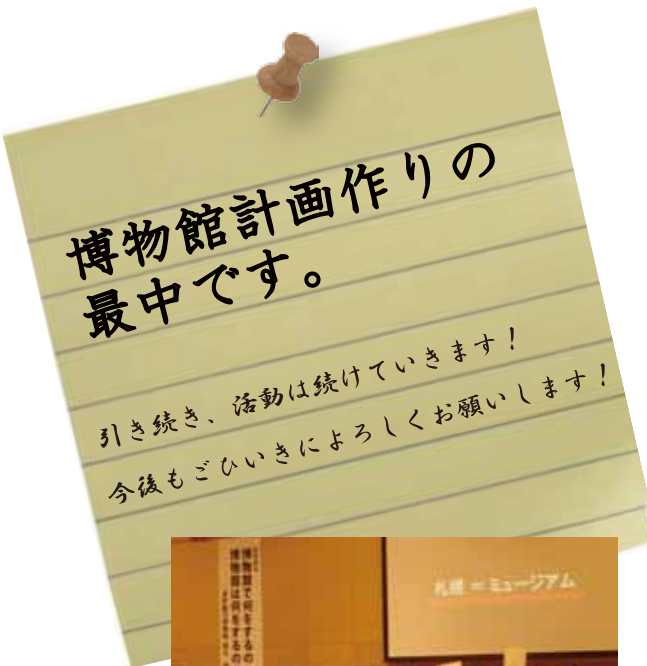
読み手: 絵本よみきかせユニット・月e t 兎(つきとうさぎ)

絵本の題名

「じぶんだけのいろ」「いろいろ へんないろのはじまり」

「しろもくろも、みんなおいで」





平成24年度から約2年をかけて「次世代型博物館計画検討委員会」を行い、専門家による検討を行いました。その間、市民の皆さんにもご意見を聞く場としてフォーラムやシンポジウムを行いました。

委員会では、自然史系博物館をつかっていくことが確認されたほか、委員のみなさんからいくつかの提案が出されました。現在、その提案をもとに、さらに札幌市としての計画を練っている最中です。

今年度中に皆様に計画案を公開し、パブリックコメントとしてご意見等を募集する予定です。情報はホームページなどで、その都度お知らせいたします。

※いつ、どこに、どんな規模の博物館ができるかは、来年度以降の検討事項で未定です。



写真：フォーラムのパネリストから出された「札幌市の博物館に求めること」（平成25年10月13日）

連載!

札幌っ子 大杉解説員の **じのスケッチブック**

Page11 色鮮やかな骨の世界

展示室に入ると、色鮮やかな透明骨格標本にまず目が行きます。ケースをじっと見たまま動かない人、「きれい！」と歓声をあげる人、「どうやって作っているのですか？」と質問攻めにしてくる人まで・・・お客さんの反応も様々です。透明骨格標本とは骨のつくりを観察するため標本で、骨から肉を取らずに筋肉を薬品で透明にして、骨は硬い骨を赤色、軟らかい骨を青色に染めます。魚類など小型の動物は、肉を全て取り除いて骨だけにする骨格標本の作り方では骨が細かくばらけやすいため、こうした方法があみだされ、研究や展示に使っているそうです。

展示している標本を作ったのは「動物標本製作サークル・ボランティアえぞホネ団」という当センターを拠点に活動するみなさんです。今回は、えぞホネ団団長の工藤智美さんにインタビューしてみました。

大杉 「標本作製のきっかけを教えてください。」

工藤さん 「子供がここに通っていて、子供よりも私が博物館での活動にはまっちゃいました(笑)」

大杉 「失敗も多かったと聞きましたが、どの標本が一番愛着がありますか？」

工藤さん 「アフリカツメガエルの標本です。一番最初に作って一番うまくいったものなので。ただ、どの作品も手にとってみてもらえればと思って日々頑張って作っています！」

大杉 「今後、博物館活動センターでこんなことをしたい！ということがあればお聞かせ下さい。」

工藤さん 「標本を作っていくことはもちろんなのですが、標本からもっと自然史というものを広めていって、こうした世界を知らない人にも新しい世界があるんだよ、楽しい世界があるんだよということを広めていけたらと思っています。その窓口が標本であればいいなと思っています。」



エゾアカガエル



ミシシippアカミミガメ

行事おしらせ

いずれも参加無料、多数時抽選

実践！エゾシカ皮なめし探究会

～皮なめしからクラフト作りまで～ 連続4回

【開催日時】各回とも13:00～16:00

第1回 2月8日(日): 脂肪・筋肉を取る、毛を取り除くための前処理。

第2回 2月21日(土): 毛を除去する。ミョウバン液に浸す。

第3回 3月14日(土): 軽く洗ってから、乾かすために釘で板に貼り付ける。ひまし油を塗る。

第4回 3月21日(土): 柔らかくするために革をもむ。小銭入れなど小物を作る。

【対象】一般 【定員】10名(多数時抽選) 【応募締切】平成27年1月21日(水)必着

【講師・スタッフ】

伊吾田宏正(酪農学園大狩猟管理学研究室・准教授)

松浦友紀子(森林総合研究所研究員・TWIN代表)

長谷川理(エコ・ネットワーク・環境NGOカピウ代表)

板倉来衣人(酪農学園大学学生)

【お申し込み方法】

ハガキ、FAX、メールにて札幌市博物館活動センター(下記)までお申し込みください。

行事名、住所・郵便番号、参加者全員の氏名、年齢、電話番号を明記。

札幌市博物館活動センターご案内

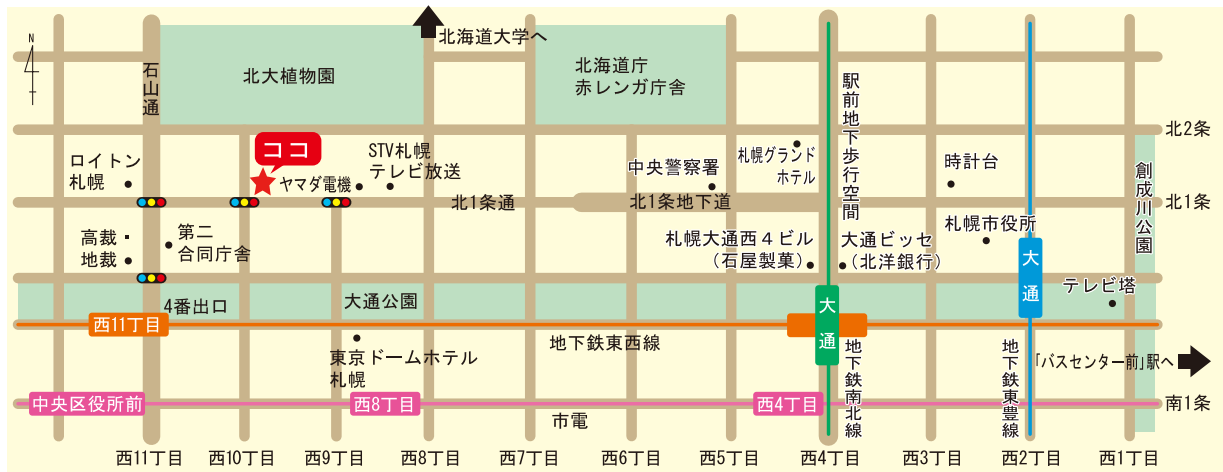


ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

【開館時間】10時～17時 【入館料】無料 【休館日】日・月曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

【住所】〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ5階

【電話】011-200-5002 【FAX】011-200-5003 【E-mail】museum@city.sapporo.jp



■公共交通機関をご利用ください。

＜地下鉄＞東西線西11丁目駅4番出口徒歩5分。

＜市電＞西8丁目または中央区役所前電停徒歩8分。

＜バス＞北1条西7丁目バス停徒歩3分。

■札幌駅前地下歩行空間を大通方面に向かい、北1条地下道へ右折し、最も西側の出口(右手)から地上へ出て、そのままヤマダ電機の方へ直進、徒歩約5分(合計徒歩約15分)。

編集後記

観察会の下見でもなければ近づくことができなかった赤れんがテラスですが、5階の展望室は自由に入れることを発見しました。北3条広場も道庁の木々も一望できます。ビルの中の店舗には札幌軟石を使った装飾もあり、札幌という地域を意識しているのかな?というのがうかがわれました。(ま)

累計来館者数 **94,854**人

(2014年10月末現在)



さっぽろ市
02-002-14-783
26-2-543



ミュージズレターは、再生紙および植物油インキを使用しています。